

A 研究開発課題

I. 大学教育の公開と大学間協力

(1) 公開講座研究班 → 参照 事業計画 3.(1) 31 頁

研究目標 放送利用の大学公開講座実施大学と連携協力して、放送利用による大学教育の内容・方法等の研究開発、大学教育の開放の促進、大学における教育方法の改善、大学群への活用等について研究を行う。

A. 公開講座番組の共同利用及び活用

研究課題 大学教育の地域社会への開放の促進及び大学授業への活用等の現状について調査分析するとともに、放送公開講座実施大学間で相互に他大学の番組の複製物を視聴検討し、放送公開講座の改善の具体的方策を研究する。

B. 大学群における公開講座番組の利用

研究課題 同一地域内の大学が共通に正規の授業として利用でき、かつ、一般社会人をも対象とすることのできる公開講座の番組、印刷教材、学習指導、単位認定等及び関連諸機関の連携協力のあり方等を研究する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
館 昭（助教授）＊ 浜野 保樹（助教授）	小林 靖雄（放送大学副学長） 遠山 紘司（放送大学助教授） 水越 敏行（大阪大学教授） 天野 郁夫（東京大学教授） 公開講座実施大学 北海道、東北、新潟、金沢、 大阪、広島、熊本、名古屋、 信州、琉球、高知	井出 定利（民間放送教育協会 総合プロデューサー）

(2) 私大通信研究班 → 参照 事業計画 5. 33 頁

研究目標 私立大学通信教育協会との連携協力のもとに、通信教育における学習継続のチェック・システム、ペースメーカーとしての放送利用、共通教材の副教材の開発および放送大学の利用等による、通信教育の学習の効率化について、調査研究する。

A. 通信教育用放送番組の制作・放送

研究課題 番組内容（学習指導，教材指導，補習講座）及び放送期間，時間帯の最適化について研究する。

B. 共通印刷教材の開発

研究課題 既刊の共通教材を対象とし，学習の理解度を調査するとともに教材の理解，自己学習評価のための手法を盛りこんだスタディーガイドを開発する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
阿部 美哉（教授）＊ 館 昭（助教授）	小谷津孝明（慶応義塾大学教授）	

(3) 共通教材研究班

研究目標 高等教育機関において共通に利用することのできるビデオ・オーディオ教材を開発・制作し、高等教育機関の教育の改善充実に資するとともに、学習指導方法等の基礎的な調査研究を行う。

A. 教師教育教材の制作 → 参照 事業計画 2.(1) 25 頁

研究課題 教員養成教育に利用することのできるビデオ教材を制作し、教育実習生及び現職教員等の教材として利用し教育効果を高め、その質的向上を確保するとともに教職課程の教育方法等の改善に資するための研究開発を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
藤田 恵壘（教授）＊ 赤堀 正宜（助教授）	坂元 昂（東京工業大学教授） 鈴木 慎一（早稲田大学教授） 西之園晴夫（京都教育大学教授） 黒川徳太郎（尚美音楽短大教授）	戸塚 滝登（氷見市立湖南 小学校教諭）

B. コンピュータ教育用番組の制作

研究課題 学校教育におけるコンピュータ教育に対する関心の高まりに対応して、その現状を把握し、コンピュータ教育のあり方の検討に資するとともに、教員養成に利用することのできるビデオ教材を制作して、教職課程でのコンピュータ教育の理解に役立たせる。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
浜野 保樹（助教授）＊	坂元 昂（東京工業大学教授） 西之園晴夫（京都教育大学教授） 大村 皓一（大阪大学助教授） 黒川徳太郎（尚美音楽短大教授）	戸塚 滝登（氷見市立湖南 小学校教諭） 中山 和彦（筑波大学教授） 後藤 忠彦（岐阜大学教授）

C. 高等専門学校用共通教材の制作 → 参照 事業計画 2.(2) 27 頁

研究課題 高等専門学校で、一般的に欠落しているが必要度の高い授業科目について、共通に利用できる番組を制作し、実際の授業に使用してその評価研究を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
若松 茂（教授）＊	渡辺 格（北里大学教授）	比嘉 昭子（筑波大学医療短大教授）
大塚 雄作（助教授）	芝 清隆（センター非常勤講師）	伊藤 祐子（北里大学講師）
佐藤 卓二（助教授）	小島 栄樹（函館高専教授）	山口 雅弘（㈱DNA研究所主幹）
	黒川徳太郎（尚美音楽短大教授）	笹本 忠（東京高専教授）
		高橋 克夫（木更津高専助教授）
		赤羽 徹（沼津高専助教授）

(4) 放送大学に関する調査研究班 → 参照 事業計画 7. 35 頁

研究目標 放送大学学生に関する各種調査及び遠隔教育への需要・効果等の調査を実施し、放送大学と協力して今後の放送大学の管理・運営の指針となるべき基本的資料を作成する。

A. 学生調査

研究課題 a. 60年度の調査データの分析に基づき、60, 61両年度入学者間の比較分析及び既被調査者について継続して調査を行い、今後の遠隔教育のあり方を研究するための基礎資料とする。

b. 放送大学学生並びに各種の学習機関における成人学習者の意識を調査し、その間の異同を明らかにすることにより、放送大学学生の意識の特徴をより一層明確に把握し、今後の放送大学のあり方を研究するための基礎資料とする。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
岩永 雅也（助手）＊	甲田 和衛（放送大学副学長）	坂井 素思（放送大学助教授）
大塚 雄作（助教授）	加藤 秀俊（放送大学教授）	梅津 順一（放送大学助教授）
柴山 盛生（助教授）	池木 清（文部省高等教育局 ・非常勤講師）	山田 文康（大学入試センター 助手）
山中 速人（助手）		
塩崎千枝子（助手）		

B. マーケット調査

研究課題 放送大学の放送エリア内の一般居住者を対象とした放送教育需要調査を行い、今後の放送大学及び放送教育のあり方を研究するための基礎資料を作成する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
大塚 雄作（助教授）＊ 岩永 雅也（助手） 山中 速人（助手）	甲田 和衛（放送大学副学長） 加藤 秀俊（放送大学教授）	坂井 素思（放送大学助教授） 梅津 順一（放送大学助教授） 山田 文康（大学入試センター助手）

C. 学習センターに関する調査研究

研究課題 放送大学全国化の際の学習センターのあり方（役割と機能）及び学習指導（一般学習相談、専攻別学習指導等）の進め方についての研究を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
若松 茂（教授）＊ 田代 和久（助教授） 柴山 盛生（助教授） 塩崎千枝子（助手）	小林 靖雄（放送大学副学長） 宮代 彰一（放送大学教授） 矢部 章彦（放送大学教授） 平沢彌一郎（放送大学教授） 遠山 紘司（放送大学助教授） 池木 清（文部省高等教育局・非常勤講師）	横山 雅夫（放送大学助教授） 伊藤 公一（放送大学助教授） 臼井 永男（放送大学講師） 大塚 秀高（放送大学助教授）

II. 遠隔教育の調査研究

(1) 遠隔教育基礎調査研究班

研究目標 国内外の遠隔教育機関及び各種の生涯教育機関に関する各種資料を収集し、現時点での遠隔教育の実情を把握できる基礎的資料を作成し、遠隔教育の今後の可能性と問題点を明らかにする。

A. 遠隔教育制度、事情の研究

研究課題 カリキュラム及び評価の公開性と標準化並びに教員の教授技能の組織的な開発が必要とされるメディアを媒介とした教育のあり方を探るため、参考とすべき諸外国の教育制度、教育事情を調査研究する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
館 昭（助教授）＊ 浜野 保樹（助教授） 島田 裕己（助手） 岩永 雅也（助手） 塩崎千枝子（助手）		荒井 克弘（国立教育研究所室長） 池田 輝政（大学入試センター助手） 今井 重孝（東京工芸大講師） 古屋野素材（明治大学講師） 別府 昭郎（明治大学助教授） 安原 義仁（国立教育研究所研究員）

B. 遠隔教育機関の資料収集及びリスト作成

研究課題 国内外を含めた遠隔教育機関に関する情報の収集に努め、その実情を調査し、遠隔教育の現時点での可能性と問題点を明らかにする。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
島田 裕己（助手）＊		

C. 遠隔教育情報データベースの開発

研究課題 遠隔教育に関する研究情報，学習情報，教材情報等を収集，管理，利用するための方法・進め方を検討し，それに適したデータベースの構築や他のシステムの利用方法等を研究開発する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
柴山 盛生（助教授）＊ 大塚 雄作（助教授） 山中 速人（助手）		菊川 健（東海大学助教授）

(2) ニューメディア研究班

研究目標 本格的なニューメディア社会の到来を前にして，各種のニューメディアが教育の分野にいかに関活用できるか，その可能性を探り，高等教育での実際の利用方法を研究開発する。

A. コンピュータ通信・学習

研究課題 センターLANシステムを利用したコンピュータ通信による遠隔学習指導の実践及び学術情報通信ネットワークの構築並びに内外の高等教育機関のコンピュータ通信の教育利用に関する調査研究を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
浜野 保樹（助教授）＊ 阿部 美哉（教授） 大塚 雄作（助教授） 塩崎千枝子（助手）	西 和彦（㈱アスキー副社長） 後藤 和彦（常磐大学教授） 前迫 孝憲（東京工業大学助手・非常勤講師） 佐伯 胖（東京大学助教授）	清水 康敬（東京工業大学教授） 古屋 一仁（東京工業大学教授） 今泉 洋（㈱アスキー番組制作部長） 林 伸夫（マグローヒル社副編集長）

B. CATVの遠隔教育実験

研究課題 全国のCATV局の経営・運営の実態や利用のされ方など、現状を調査し、放送大学の全国ネット化にいかに関与しうるかを判断するための基礎資料を作成する。併せて特定のCATV局で実際に番組を放送し、実践的にその可能性を探る。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
岩永 雅也（助手）＊ 浜野 保樹（助教授） 山中 速人（助手） 塩崎千枝子（助手）	川畑 正大（ニューメディア 開発協会理事） 後藤 和彦（常磐大学教授） 前迫 孝憲（東京工業大学助手 ・非常勤講師） 佐伯 胖（東京大学助教授）	清水 康敬（東京工業大学教授） 古屋 一仁（東京工業大学教授） 今泉 洋（㈱アスキー番組 制作部長） 林 伸夫（マグロウヒル社 副編集長）

(3) 学習指導・評価研究班

研究目標 遠隔教育における学習指導方法の最適化を実践的に研究する。

A. 放送教材等の利用に関する研究 → 参照 事業計画 1.(2) 24 頁

研究課題 放送を利用して行う教育の発展・充実に資するため、放送大学の放送教材及び放送大学以外の大学の放送教材を本センターにおいて視聴・分析するとともに、大学その他の教育機関等において教育・研究等に幅広く利用する方策について、放送大学・国・公・私立の大学その他の教育機関等と共同で研究する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
天城 勲（所長）＊ 阿部 美哉（教授） 大塚 雄作（助教授） 山中 速人（助手）	小林 靖雄（放送大学副学長） 甲田 和衛（放送大学副学長）	

B. 遠隔教育における成績等評価法の調査研究

研究課題 遠隔教育におけるアチーブメントの評価について、放送大学及び諸外国の放送大学での評価法に関する資料の収集、分析し、試験方法、放送メディア等と成績との関連について研究するとともに評価法の望ましいあり方を模索する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
大塚 雄作（助教授）＊ 藤田 恵壘（教授） 岩永 雅也（助手） 山中 速人（助手）	肥田野 直（放送大学教授）	山田 文康（大学入試センター助手）

Ⅲ. 多媒体教育の研究開発

(1) メディア活用研究班

研究目標 放送大学の主要教育手段であるテレビ，ラジオ及び印刷教材の教育手段としての特性を明らかにし，それぞれの特性を効果的に教育に活かすための制作手法のモデルを研究開発する。

A. テレビ，ラジオ，印刷教材の教育効果比較研究

研究課題 遠隔教育におけるテレビ，ラジオ，印刷教材のあり方を検討し，試作及び施行を通じて効果的な教材の構成及び制作並びに活用の方法を明らかにする。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
杉 依孝（助教授）＊	祖父江孝男（放送大学教授）	木内実喜夫（放送大学制作部長）
阿部 美哉（教授）	深谷 昌志（放送大学教授）	岡崎 友典（放送大学助教授）
藤田 恵璽（教授）	奈須 紀幸（放送大学教授）	
小町 眞之（助教授）		
赤堀 正宜（助教授）		
島田 裕己（助手）		
山中 速人（助手）		

B. 放送教育番組のタクソノミーの開発研究及び視聴学習行動の研究

研究課題 教育番組の構造的・機能的タクソノミー（系統分類）の開発を行うと同時に、学習者の視聴行動を計測し、番組と視聴学習との関係を明らかにするとともに、「放送テスト」の研究・開発を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
藤田 恵璽（教授）＊ 福田 滋（助教授） 小町 真之（助教授）	星野 昭彦（千葉大学助教授） 伊藤 秀子（岐阜大学助手）	野嶋榮一郎（福井大学助教授） 村川 雅弘（鳴門教育大学助手） 本間 明信（宮城教育大学助手） 堀江 固功（NHK放送総局主幹） 秋山隆志郎（NHK放文調研主任研究員）

C. 印刷教材の研究

研究課題 遠隔教育における印刷教材の内容を分析して、印刷教材の構造の分類を行い、印刷教材と放送番組による学習の総合的デザインを研究開発する。当面既存の放送と印刷教材による学習を援助するための副教材（スタディーガイド）の試作を行い、すすんで印刷教材及び副教材の作成のためのガイドラインの設定をめざす。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
島田 裕己（助手）＊ 館 昭（助教授）	祖父江孝男（放送大学教授）	岡崎 友典（放送大学助教授） 水谷 次男（放送大学教育振興会編集本部長）

D. コンピュータ通信, ファックス等を利用した遠隔教育システムの調

査研究→参照 事業計画 6. 34頁

研究課題 放送教育の一方向性を補填するスクーリングが, その遠隔性の理念と相入れないことを補うために, 放送・印刷教材, スクーリング等と組み合わせる形でコンピュータ, ファックス等双方向コミュニケーションの諸技術を大学教育に導入するための技法を研究開発する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
浜野 保樹(助教授)＊ N.I. ティール(助教授) 塩崎千枝子(助手) 山中 速人(助手)	比嘉 正範(放送大学教授) 川崎 展宏(明治大学教授) 前迫 孝憲(東京工業大学助手 ・非常勤講師)	飯田 實(信州大学教授) 小尾 郊一(広島大学名誉教授) 赤羽 龍作(元信州大学講師) 成瀬 有(都立北園高校教諭)

E. 工学教育のニューメディア導入による新教育法モデル開発の研究

研究課題 工学教育の学習効果を高めるために, ニューメディアを導入し, 実証的研究に基づいて工学教育モデルを設定する。作業仮説として設定された工学教育モデルに即して各種メディアを活用した教材(CAI, ビデオ, パソコン通信等)を制作し, 高専をフィールドとしてその効果を分析する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
柴山 盛生(助教授)＊ 阿部 美哉(教授) 浜野 保樹(助教授) 館 昭(助教授) N. J. ティール(助教授)	坂元 昂(東京工業大学教授) 西村 久孝(富山高専教授) 藤沢 俊男(大阪大学教授) 小島 栄樹(函館高専教授) 後藤 和彦(常磐大学教授) 前迫 孝憲(東京工業大学助手 ・非常勤講師) 佐伯 胖(東京大学助教授)	矢代 和祐(函館高専教授) 森 治朔(富山高専助教授) 佐藤 晴美(富山高専助教授) 清水 康敬(東京工業大学教授) 古屋 一仁(東京工業大学教授) 今泉 洋(㈱アスキー番組 制作部長) 林 伸夫(マグロウヒル社 副編集長)

(2) 語学教育研究班

研究目標 マス教育における語学教育のあり方を放送大学語学番組の学習到達度の測定等を通じて研究し、構築する。

A. 日本語

研究課題 日本語教育の需要の高まりに対応し、日本語及び日本語教育に関するマルチ・メディア教材のあり方を探り、コースチームを組織して教材を制作する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
島田 裕己（助手）＊ 福田 滋（助教授）	古田 東朔（放送大学教授） 相澤 正夫（国語研究所研究員 ・非常勤講師）	野元 菊雄（国立国語研究所 所長） 林 大（日本語教育学会 会長）

B. 英語

研究課題 暗記中心主義の英語から創造的な英語（表現力を強調した英語）への転換及び初級英語を活用する英語教育の方策を研究し、併せて「英語教育の達成度」の理論化及び具体化を図る。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
N. J. ティール（助教授）＊	比嘉 正範（放送大学教授）	國吉 丈夫（千葉大学助教授）

C. 独 語

研究課題 ドイツ語 I の授業科目について、授業内容のレベルだけではなく、授業の構成や教授法についての問題点を洗い出し、放送を通じての語学授業のあり方を研究する。

研究組織

専 任 教 官	客 員 教 官	研 究 協 力 者
		辻 理 (放送大学教授) 大貫 敦子 (放送大学助教授) 中山 純 (明治学院大学助教授) 上田 浩二 (早稲田大学助教授) 吉島 茂 (東京大学助教授) 相澤 啓一 (青山学院大学専任講師) Dr. Hans L. Bauer (東京ゲーテ・インスティトゥート副所長)

D. 仏 語

研究課題 フランス語教育について、フランスで開発された各種教材、外国語としてのフランス語教育理論を研究しつつ他大学でも利用可能な教材の開発を行う。

研究組織

専 任 教 官	客 員 教 官	研 究 協 力 者
福井 芳男 (教授) *	宮原 信 (東京大学助教授)	ジャン・ムサリ (仏大使館文化部教育担当官) 井戸 桂子 (放送大学助教授) 鯨井 佑士 (宇都宮大学助教授)

(3) 特別プロジェクト研究班

研究目標 遠隔教育に利用される教材について幅広く研究し、実際に活用しうる教材の開発を行う。

A. 海外との共同による番組制作

研究課題 外国の研究者の協力を得て、特定のテーマについて高等教育レベルのパッケージ方式教材の海外との共同制作・放送の可能性を探り、共同研究及び番組制作を実施する。また、海外の遠隔教育機関に映像教材を提供し、日本の教育の現状理解に役立たせる。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
阿部 美哉（教授）＊ 浜野 保樹（助教授） N. J. ティール（助教授） 佐藤 卓二（助教授） 安岡 克巳（助教授） 島田 裕己（助手） 山中 速人（助手）	祖父江孝男（放送大学教授）	堀江 固功 （NHK放送総局主幹） 秋山隆志郎 （NHK放文調研主任研究員）

B. ビデオディスク教材の開発研究

研究課題 ビデオディスクの教育特性、費用効果、教育利用の実態、ハードウェアとソフトウェアの普及状況等を明らかにし、遠隔高等教育や放送局等での利用可能性を調査研究する。併せてビデオディスクの特性を活かした教材及び放送素材検索システムの開発研究を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
阿部 美哉（教授）＊ 浜野 保樹（助教授） 金山 暢郎（助教授）	後藤 和彦（常磐大学教授） 前迫 孝憲（東京工業大学助手 ・非常勤講師） 佐伯 胖（東京大学助教授）	清水 康敬（東京工業大学教授） 古屋 一仁（東京工業大学教授） 今泉 洋（㈱アスキー番組 制作部長） 林 伸夫（マグローヒル社 副編集長） 菊川 健（東海大学助教授）

C. 放送大学補助教材の開発

研究課題 自然科学系の面接授業科目において、様々な法則の概念を映像によって分りやすく説明するためのビデオ、CAIソフト等教材を試作的に制作し、提示方法を研究する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
柴山 盛生（助教授）＊ 若松 茂（教授） 島田 裕己（助手）	宮代 彰一（放送大学教授） 遠山 紘司（放送大学助教授） 田中 清臣（電気通信大学教授）	渡部 徳子（放送大学助教授） 江藤 哲人（横浜国立大学助手）

B 委員会組織

(1) 資料委員会

審議事項

- A. 文献・情報資料及び映像音声資料等に関すること。
- B. 文献・情報資料及び映像音声資料等の検索及び利用方法に関する
こと。
- C. 内外の遠隔教育関係機関の資料及び資料システムの利用に関する
こと。

専任教官	客員教官	研究協力者
阿部 美哉（教授） 杉 依孝（助教授） 島田 裕己（助手）		

(2)－A MME研究ノート編集委員会

審議事項 MME研究ノートの編集方針を決定し，年間計画を立案
してその実施に当たる。

専任教官	客員教官	研究協力者
阿部 美哉（教授） 杉 依孝（助教授） 浜野 保樹（助教授） 島田 裕己（助手）	遠山 紘司（放送大学助教授）	

(2)－B 研究紀要発刊準備委員会

審議事項 研究紀要（仮）の編集方針を審議し，その発刊準備にあたる。

専任教官	客員教官	研究協力者
阿部 美哉（教授） 福井 芳男（教授） 藤田 恵璽（教授） 若松 茂（教授）		

(3) シンポジウム実行委員会

審議事項 本センターの主催するシンポジウムの計画を立案し，その実行について協議する。

A. 大学放送教育国際シンポジウム（放送大学と共催）昭和61年11月5～6日，於・放送教育開発センター制作棟ホール→参照事業計画4. 32頁

B. 放送利用による大学公開講座シンポジウム（第4回），於・金沢大学→参照 事業計画3.(2) 32頁

C その他

(4) ニューメディア研究会

研究課題 各種ニューメディアの教育利用の可能性について，講演会又は懇談会形式により関係有識者の意見を聴き，具体的方策を検討する。

(5) 共同利用検討委員会

審議事項 共同利用機関として，共同研究等の受入れに関する制度及び共同利用施設設備の整備等について検討する。

A. 共同利用体制に関する制度的検討

B. 共同利用施設設備の整備計画及び利用計画に関する検討

C 昭和61年度事業計画概要

1. 研究開発番組

(1) 研究開発番組の制作

放送を利用して行う大学教育の内容、方法等に関する研究開発を、より効果的に実施するため研究開発番組を制作し、印刷教材を作成する。

なお、この研究開発番組及び印刷教材は、放送大学の昭和62年度開設科目として使用することが予定されている。

	科 目 名	主 任 講 師	単位	制作本数
テレビ	経 済 発 展 論	嘉治 元郎 (放送大学教授)	2	15
	現代の国際政治	神谷 不二 (慶応義塾大学教授)	2	15
		高橋 和夫 (放送大学助教授)		
	産業技術の動向Ⅰ	黒澤 一清 (東京工業大学教授)	2	15
	ア メ リ カ 論 Ⅱ	増田 義郎 (東京大学教授)	2	15
	ヨー ロ ッ パ 論 Ⅰ	阿部 玄治 (放送大学教授)	2	15
	ヨー ロ ッ パ 論 Ⅱ	木村尚三郎 (東京大学教授)	2	15
	宇 宙 像 の 変 遷	村上陽一郎 (東京大学教授)	2	15
	小 計		14	105
ラジオ	青少年の保健Ⅱ	本間 日臣 (放送大学教授) 丸井 英二 (東京大学講師)	2	15
	道 徳 教 育	宇佐見 寛 (千葉大学教授)	2	15
	経 済 活 動 と 法	来生 新 (横浜国立大学助教授)	2	15
	欧 米 経 済 史	関口 尚志 (東京大学教授)	2	15
		梅津 順一 (放送大学助教授)		
	政 策 科 学	吉村 融 (埼玉大学教授)	2	15
	経 営 組 織 論	森本 三男 (青山学院大学教授)	2	15
	近 代 文 芸 Ⅰ	紅野 敏郎 (早稲田大学教授)	2	15
	小 計		14	105
計			28	210

(2) 教材の評価分析

放送大学等の放送教材を大学その他の教育機関等において教育、研究等幅広く利用する方策及び放送教材の見なおしのための評価分析等を研究するため国立大学共同利用機関である本センターが大学等に放送大学授業番組等の複製物を配布する。

(参 考)

昭和61年度予算

1. 評価分析教材

VT・AT各20校×9科目×30本＝5,400本

2. 比較教材

20校×3科目＝60科目

2. 共通教材の開発・制作

高等教育機関における教育の質的向上と効率化を図るため、高等教育機関において共通に利用できるビデオ・オーディオ教材を開発・制作し、高等教育機関の教育の改善充実に資するとともに学習指導方法等の基礎的な調査研究を行う。

(1) 教師教育教材作成状況

Ⅰ 教育実習の日々シリーズ		
1.	教育実習の日々ー附属小学校ー	昭和59年度作成済
2.	教育実習の日々ー附属中学・高校ー	昭和59年度作成済
3.	教育実習の日々ー公立小学校ー	昭和60年度作成
4.	教育実習の日々ー公立中学校ー	昭和60年度作成
5.	教育実習の日々ー公立高等学校ー	昭和60年度作成
6.	教育実習の日々ー幼稚園ー	昭和61年度作成予定
Ⅱ 実習生の授業シリーズ		
1.	実習生の授業ー小学校・国語ー	昭和59年度作成済
2.	実習生の授業ー小学校・算数ー	昭和59年度作成済
3.	実習生の授業ー小学校・理科ー	昭和60年度作成
4.	実習生の授業ー小学校・体育ー	昭和60年度作成
5.	実習生の授業ー中学校・英語ー（附属）	昭和59年度作成済
6.	実習生の授業ー中学校・英語ー（公立）	昭和60年度作成
7.	実習生の授業ー中学校・国語ー	昭和60年度作成
8.	実習生の授業ー中学校・理科ー	昭和60年度作成
9.	実習生の授業ー中学校・数学ー	昭和60年度作成
10.	実習生の授業ー中学校・社会ー	昭和60年度作成
11.	実習生の授業ー高校・国語ー	昭和59年度作成済
12.	実習生の授業ー高校・生物ー	昭和60年度作成
13.	実習生の授業ー高校・地理ー	昭和60年度作成

Ⅲ ある教師の授業シリーズ		
1. ある教師の授業－小学校・算数－	昭和59年度作成済	
2. ある教師の授業－小学校・体育－	昭和60年度作成	
3. ある教師の授業－小学校・国語－	昭和61年度作成予定	
4. ある教師の授業－小学校・社会－	昭和61年度作成予定	
5. ある教師の授業－中学校・国語－	昭和61年度作成予定	
6. ある教師の授業－中学校・社会－	昭和61年度作成予定	
7. ある教師の授業－中学校・数学－	昭和60年度作成	
8. ある教師の授業－中学校・理科－	昭和60年度作成	
9. ある教師の授業－高校・生物－	昭和60年度作成	
10. ある教師の授業－高校・地理－	昭和60年度作成	
11. 実験・実習・作業－中学校・理科－	昭和60年度作成	
12. 実験・実習・作業－高校・理科－	昭和60年度作成	
Ⅳ 教育実習の意義シリーズ		
1. オリエンテーション	昭和61年度作成予定	
Ⅴ 授業研究シリーズ		
(富山市堀川小学校と打合せを行う)		
Ⅵ 教育機器シリーズ		
1. 授業のとり方	昭和61年度作成予定	
Ⅶ 子供の学校生活シリーズ		
1. 生徒の1日(小学校)	昭和61年度作成予定	
2. 生徒の1日(中学校)	昭和61年度作成予定	
Ⅷ 模擬授業シリーズ		
1. マイクロティーチングの実際	昭和61年度作成予定	
Ⅸ その他		
* S. H. R－高校－	昭和60年度作成	
* ある教師の心－先輩教師は語る－	昭和60年度作成	
* クラブ活動－フランス語－	昭和60年度作成	
* 高校教師一年生	昭和60年度作成	

(2) 高等専門学校用教材「生物」

「生物」開発制作計画（案）

I. 基礎編 6 卷

巻	テ ー マ
第 1 巻	「新しい生命科学」 DNAから出発する内からの生物学，生命操作技術，バイオテクノロジーの進展等オーバービュー的構成とする。
第 2 巻	「生命の基盤 — DNA」 遺伝子の本体，構造，複製，分子模型，DNAの抽出，その他。
第 3 巻	「タンパク質の性質とその利用」 酵素，物質代謝，バイオセンサー，多様なタンパク質の働き。
第 4 巻	「微生物，その利用と取り扱い方法」 微生物一般の取り扱い。 微生物利用－微生物工業，発酵工業。 固定化酵素（酵母）とバイオリアクター。
第 5 巻	「DNA，RNA，タンパク」 遺伝情報の発現，遺伝暗号等。 DNAの遺伝メッセージ部分と作動部分。 mRNA，tRNA，スプライシング。
第 6 巻	「タンパク質の構造と機能」 タンパク質の立体構造。 タンパク質工業等，コンピュータグラフィックを主体に構成。

Ⅱ. 組換えDNA技術, 実験編 10 卷

卷	テ ー マ
第 7 卷	「大腸菌の取り扱い」 滅菌操作, 核酸取扱の諸注意。
第 8 卷	「形質転換」 細胞のコンピート化。 DNAの細胞への導入。 形質転換体の選択。
第 9 卷	「遺伝子発現の誘導」 lac Z 遺伝子発現誘導実験。
第 10 卷	「核酸の観察」 核酸の粗抽出。 電気誘導。
第 11 卷	「タンパク質の観察」 タンパク質の SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動。
第 12 卷	「DNAの制限酵素切断Ⅰ」 DNAの制限酵素による切断。
第 13 卷	「DNAの制限酵素切断Ⅱ」 切断DNAの電気泳動による解析。
第 14 卷	「組換えDNA分子の作成Ⅰ」 DNAの切断と精製。
第 15 卷	「組換えDNA分子の作成Ⅱ」 DNA分子の結合。
第 16 卷	「組換えDNA分子の作成Ⅲ」 組換え体の選択。

Ⅲ. 植物（農）編 5 卷

巻	テ ー マ
第 17 巻	「植物の組織培養」 組織培養の基礎，培地，装置。 個体の発生。
第 18 巻	「植物組織培養の応用Ⅰ」 成長点培養 — 健全苗の育成。 葯（花粉）培養 — 育種期間の短縮。 培養 — 新野菜の育成。
第 19 巻	「植物組織培養の応用Ⅱ」 物質生産（朝鮮ニンジン等）。 カルス培養。 固定化植物細胞とバイオリアクター。
第 20 巻	「植物の細胞融合Ⅰ」 プロトプラスト化。 プロトプラストからの個体の発生。
第 21 巻	「植物の細胞融合Ⅱ」 異種プロトプラストの融合。 融合促進剤。 雑種細胞—カルス—個体の再生。 体細胞の雑種の育成，応用。

Ⅳ. 動物（畜産，水産）編 4 巻

巻	テ ー マ
第 22 巻	「初期胚移植による家畜の増産」 多排卵操作，初期胚の採取，保存，移植，成果。
第 23 巻	「初期胚操作とその応用」 受精卵－初期胚，胚細胞。 初期胚操作のいろいろ。 スーパーマウス，トランジェニックマウス。
第 24 巻	「初期胚の分割，移植」
第 25 巻	「水産分野のバイオテクノロジー」 雌魚だけを作る方法。 貝類の改良。 海草の改良。

Ⅴ. アドバンスコース 5 巻

（参考） 昭和 60 年度制作の「生物」試作教材

Ⅰ 部（イントロ・導入）		Ⅱ 部（講 義）		Ⅲ 部（実験・実習）	
1	今日のバイオテクノロジー	1	生命の基盤～DNA～	1	組換え DNA 分子の作成
		2	DNA からタンパク質へ	2	組換え体の作成
計 1 本		計 2 本		計 2 本	

3. 放送利用の大学公開講座

地域の大学及び番組制作放送機関と共同して

ア) 放送を利用して行う大学教育の内容・方法等の研究開発

イ) 大学教育の開放の促進

ウ) 大学における教育方法の改善

に資することを目的として、放送を利用した大学公開講座を実施する。

(1) 実施大学、番組制作放送機関及び科目数

(一般分)

実施大学	番組制作 放送機関	放送公開講座数		備 考
		テレビ 科目	ラジオ 科目	
北海道大学	北海道放送	1	1	
東北大学	東北放送	1	1	
新潟大学	新潟放送	1	1	
金沢大学	北陸放送	1	1	
名古屋大学	名古屋放送	1	—	
	未 定	—	1	昭和61年度から実施
大阪大学	毎日放送	1	—	
	近畿放送	—	1	
広島大学	中国放送	1	1	
熊本大学	熊本放送	1	1	
計		8	8	

(大学群分)

実施大学	番組制作 放送機関	放送公開講座数		備 考
		テレビ 科 目	ラジオ 科 目	
信州大学	信越放送	1	—	
高知大学	高知放送	1	—	昭和61年度から実施，南海 放送でも放送
琉球大学	沖縄テレビ 放 送	1	—	
計		3	—	

* 地域の複数の大学（学部）等が共同で企画，実施し，大学が相互に授業への活用を図ること等により，大学における教育方法の改善に資するための調査研究を実施する。

(2) 放送利用の大学公開講座シンポジウム

第4回放送利用の大学公開講座シンポジウムを昭和61年度末に金沢大学で開催予定。

4. 大学放送教育国際シンポジウム

第6回放送教育研究シンポジウムについては，放送大学学園昭和61年度予算に「遠隔教育国際研究集会」の開催費が計上されたことから放送教育開発センターと放送大学との共催による国際シンポジウムとして，昭和61年11月5～6日に放送教育開発センター制作棟ホールで開催予定。

5. 大学通信教育における学習指導方法の研究開発

放送を利用して行う大学教育の内容・方法等の研究開発の一環として、通信教育を実施している私立大学等の教員及び私立大学通信教育協会と協力して、大学通信教育におけるラジオ放送を利用する学習指導方法等に関する調査研究及び大学通信教育における共通教材について研究開発を実施する。

(1) 学習指導方法の研究開発

区 分	昭和60年度以前	昭 和 6 1 年 度
実施科目数	5科目	11科目（文学，法学，数学，経済学，生物学，倫理学，社会学，地学，心理学，哲学，地理学） * A. 特別講義（一般教養） * B. 学習指導（各科目関連）
放送回数	1科目：13回 （1回45分）	1科目：4回（1回30分） * Aは延6回 * Bは延28回
放送期間	年間約6カ月	61年7月～62年3月（毎週土，日曜日放送） （62年度以降は，年間を通して毎週土，日曜日に放送予定）
制作放送局	ラジオたんぱ	ラジオたんぱ

(2) 共通教材の開発研究

共通教材の開発研究は、私立大学通信教育協会加盟の大学、短期大学の通信課程を担当する教員により、科目ごとにプロジェクトチームを編成し、一般教育科目及び外国語科目の共通教材について研究開発を行い、その教育効果について調査研究する。

ア) 新規開発及び改訂版教材の作成

イ) スタディーガイドの開発

6. 新型学習センターモデルの実験研究

放送大学授業番組を地方CATV局を利用して同時再送信し、CATV局の双方向性等の特性を活かした新型学習センターモデルを設置することにより、今後の学習センターの整備のあり方について、実験研究する。

また、あわせて遠隔教育における学習指導の改善を図るため放送・印刷教材、スクーリング等と組み合わせる形でコンピュータ、ファックス等を利用した通信指導をモニター等を対象に実践することによりメディアの特性が教育に及ぼす効果、今後の可能性等について、体系的に研究する。

「レイク諏訪放送大学講座」－昭和61年度第1学期計画－

科 目 名	メディア	単位	放送大学 面接 科目	主 任 講 師	レイク諏訪放送大学講座の進み方							備 考
					ス ク ー リ ン グ				パソ コ ン 通 信 指 導	ミニファックス 通 信 指 導		
					受 講 者 数	ス ク ー リ ン グ 会 場	ス ク ー リ ン グ 講 師	開 講 日				
英 語 I	TV	4	○	鈴木 博 、 國吉 丈夫	61人	諏訪市駅 前市民会 館	飯田 実 (信州大 教授)	1回(5/16) 2回(5/30) 3回(6/13) 4回(6/27) 5回(7/11)	指導者： N.J.ティール モニター ：36人	指導者 N.J.ティール モニター ：11人		
英語Ⅱ-B1	R	2	—	比嘉 正範	42人	〃		1回(5/23) 2回(6/ 6) 3回(6/20) 4回(7/ 4) 5回(7/18)	指導者： N.J.ティール モニター ：18人	指導者： N.J.ティール モニター ：9人		
中 国 語	R	4	—	頼 惟勤 平松 圭子	33人	〃	赤羽龍作 (元信州 大講師)	1回(5/13) 2回(5/27) 3回(6/ 3) 4回(6/13) 5回(7/ 1)	—	—		
作歌・作句	TV	2	—	井本 農一	—	—	—	—	—	指導者： 川崎 展宏 (明治大教授) モニター ：30人		
計測と制御	TV	2	○	森 政弘	—	—	—	—	—	—	講演会	

－ 昭和61年度第2学期計画 －

科 目 名	メディア	単位	放送 大学 面接 科目	主 任 講 師	レイク諏訪放送大学講座の進め方						備 考
					ス ク ー リ ン グ				パ ソ コ ン 通 信 指 導	ミニファックス 通 信 指 導	
					受講者数 (定員)	スクーリ ング会場	スクーリン グ 講 師	開 講 日			
作 歌 ・ 作 句	TV	2	－	井本 農一	50人	諏訪市駅 前市民会 館		1回() 2回() 3回() 4回() 5回()		定員:30人 指導者: 川崎 展宏 (明治大教授)	
英 語 I	TV	4	○	鈴木 博 國吉 丈夫	50人	〃	飯田 実 (信州大教授)	1回() 2回() 3回() 4回() 5回()	定員:30人 指導者: N.J.ティール	定員:30人 指導者: N.J.ティール	
中 国 語	R	4	－	頼 惟勤 平松 圭子	50人	〃	小尾 郊一 (広大名譽 教授) 赤羽 龍作 (元信州大講師)	1回() 2回() 3回() 4回() 5回()			
中 小 企 業 論	R	2	○	磯部 浩一	50人	〃		1回() 2回() 3回() 4回() 5回()	定員:4人 実施回数: 数回		パソコンによる 通信指導はコン ピュータ会議シ ステムを用いて ゼミ方式の学習 指導を行う
保 健 体 育 (新しい人体論)	TV	3	－	平沢彌一郎	50人	〃	平沢彌一郎	1回() 2回() 3回() 4回() 5回()		定員:20人 実施回数: 数回	ファックスによ る通信指導はフ ァクシミリ通信 網加入可能者に 限る

7. 放送大学に関する調査の実施

放送大学学生等に関する各種調査及び遠隔教育への需要・効果等の調査を
前年度に引続き実施し、放送大学と協力して今後の放送大学の管理・運営の
指針となるべき基本的資料を作成する。